

忠

六年
成の立ち
筆順
画数
オノ
ワシ
中
忠

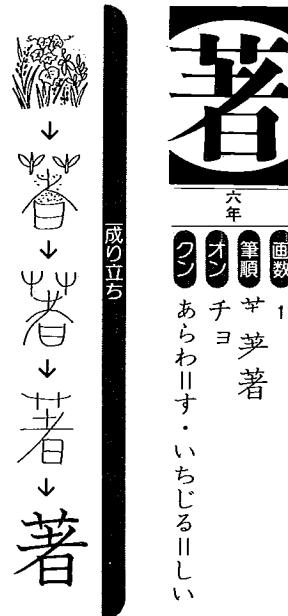
心 → 中 → 忠 → 忠 → 忠

「中」という字と、「心」という字とを組み合わせて作った字です。

どんなに悪い事をする人でも、「心の中」では、それで良いとは決して思っていないものです。朝邊坊でも、「心中」では「早起きしたい」と思っているのです。このように、「だれでも、『心の中』には、物事の良い悪いを判断し、良い事をしたい、りっぱな人になりたい、という心が働いています。

その心を「良心」と言い、「真心」と言います。忠とは「真心」という意味の字です。**例**忠実、忠信、忠言、忠告、忠誠。

特に「主人や国に対する真心」の意味に使うことがあります。**例**忠臣、忠勤、忠義、忠魂。



容器から物が大きくなればみ出した形を表し、「物の『いちじるしく』多い」ことを表した「者」(年319)と、草の意味の「サ」を組み合わせて作った字です。

庭などに雑草が「いちじるしく」はびこった様子を表した字ですが、今は、単に「いちじるしい」という意味で使われています。**例**顕著。

「いちじるしく目立つ」という意味にも使われます。**例**著名。

また、「目立つ」「現れる」ことから「現す」意味に使われ、「本を世に出す（世に現す）」意味にも使われるようになりました。**例**著作、著書、著述、著者。

使い方

△孔子のことばに、「良薬は口に苦いが病気にはよく利く。忠言は耳に痛いが、自分の行いのために良い」とあります。友だちの忠告はありがたく思って、受け入れるようにしたいと思います。

△宮城二重橋の近くに、忠臣楠正成の馬に乗った銅像があります。

熟語例

△忠言 (人のためを思つて、真心から言う忠告の言葉)

△忠告 (その人のためを思つて、真心から、欠点や悪い所をいさめ告げること。また、その言葉のこと。)

△忠実 (物事を真心こめて行い、真実みがあること。誠実なこと。「まじめ」なこと。)

△忠臣 (国のために真心こめて尽くす人のこと。忠義な臣下) という意味の言葉)

△忠義 (国のため、または主君のため、真心こめて尽くすこと。)

△忠勤 (忠実に勤めること。)

△忠魂 (忠義を尽くす心。また、忠義を尽くして死んだ人の靈魂。)

△忠勤 (忠實に勤めること。)

△忠魂 (忠義を尽くす心。また、忠義を尽くして死んだ人の靈魂。)

使い方

△わたしの学校に、ある著名な作家が講演に来たことがあります。その作家は、昔わたしたちの学校を卒業したのだそうです。それをきっかけに、その作家の著書を読むようになり、今では愛読書になりました。

△ぼくのおとうさんは、著述業です。色々な雑誌に随筆や評論を書くのが仕事です。仕事が忙しい時は、大変です。食事も抜きで、原稿を書いています。

熟語例

△顕著 (著しく目立つこと。「この絵には印象派の影響が顕著にあらわしている」などと使います。)

△著名 (名前が著しく知れ渡っていること。「有名」という意味です。「各界の著名人の集まり」などと使います。)

△著作 (本を書き著すこと。また、書き著した本。「〇〇氏の今度の著作を読みましたか」などとつかいます。)

△著述 (本を書き著すこと。また、その本)

△著者 (その本を書き著した人)